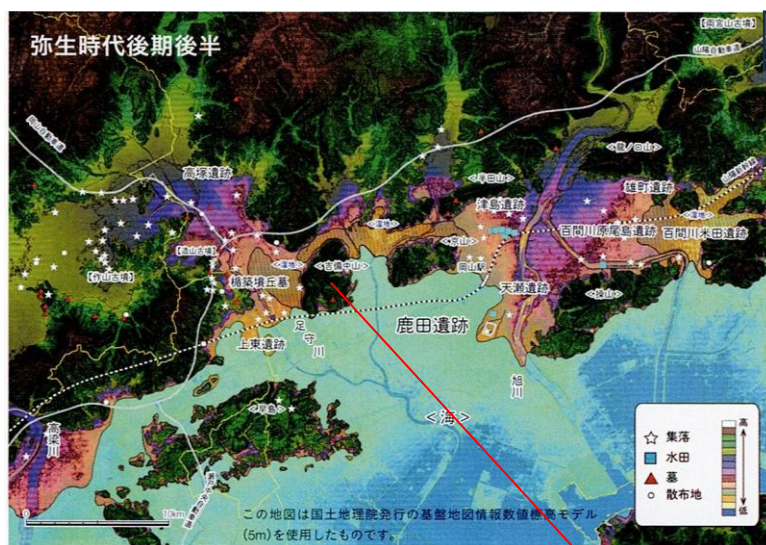


～地理院標高図のススメ～

吉備の古代遺跡を巡っていると、「なんでこんな内陸部（海から離れた地）に？」と感ずることが多々あります。また、地名に「島、津、浜、崎」など海に関わる漢字が含まれているのに「今はそんな気配が無いのになんで？」と思うことも。

これらはすべて**吉備の地形（海岸線）が「かつて」から大きく変化している**ことによります。下の図は弥生時代後期と現在の海岸線の様子を比較したのですが、まったく異なることがわかります。

麓に吉備津神社（備中一宮）、吉備津彦神社（備前一宮）を擁する吉備の中山が座す「吉備**津**」は正に**港**があった地なわけです。

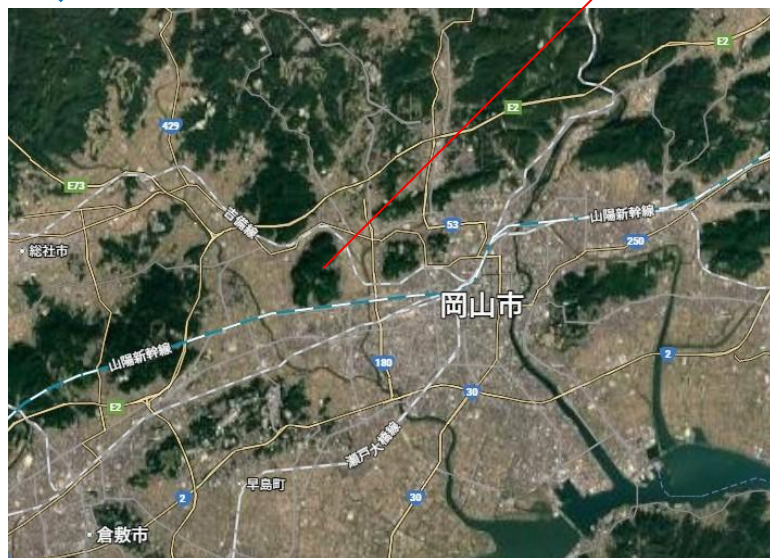


弥生時代後期後半

↑ 同じ範囲

▲参考文献1 p11より引用
赤線を追記

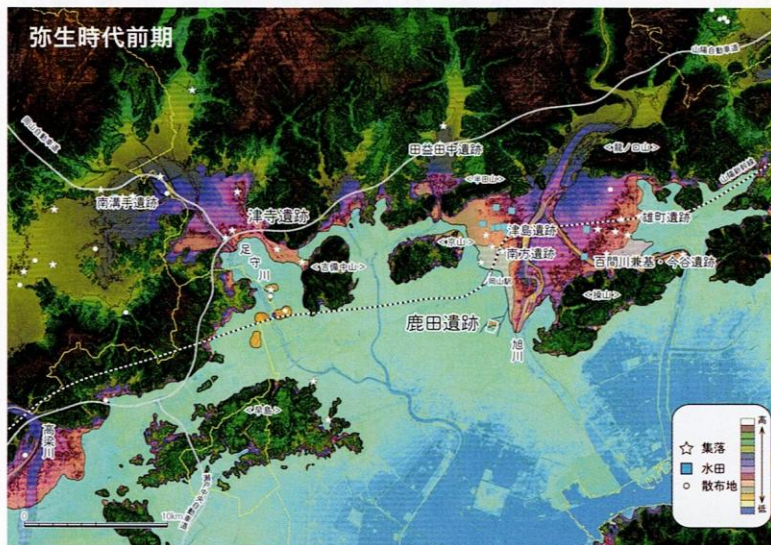
吉備の中山



現在 (2025)

児島、早島など「島」がついている地名には、かつて本当に島であったところが多くあります。

Google Mapに赤線を追記



7 岡山平野南部の地形変化

「古代にここは海からどれくらいの位置にあったんだろう？」と思ったときに役立つのが**地理院地図の「自分で作る色別標高図」機能**です。

下図は管理人が良く使う凡例ですが文献による海岸線と比較して「参考にはできる」レベルかと。

もちろん**正確ではありません**が「ひょとしてここは海だったかも？」程度の参考にはなります。

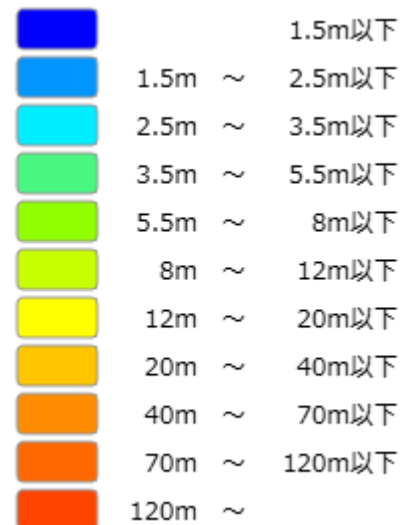
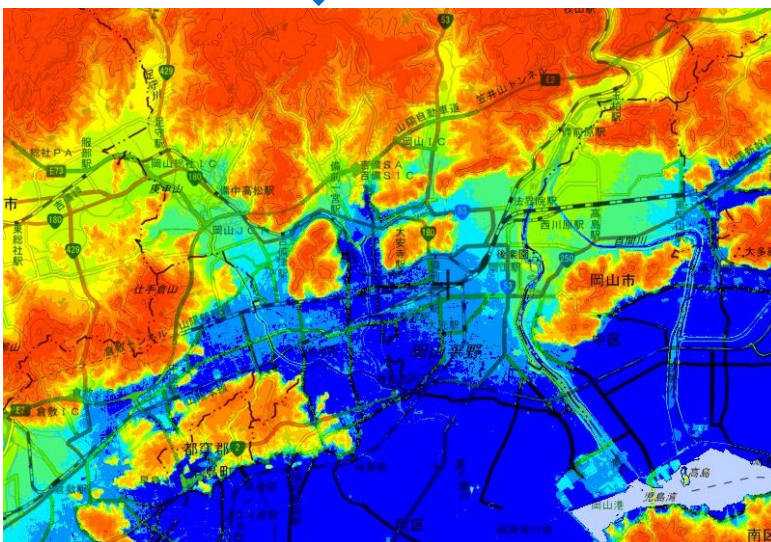
前述のように吉備の海岸線は当時から大きく変わっているので吉備探訪の際には是非参考にしてみてください。

凡例は一度作成すれば、それを保管しておいて、呼び出す機能もありますので便利です。

(本機能、地理院地図を表示して左上に□で囲まれた「地図」とあるボタンを押してみてください)

同じ範囲

▲参考文献 1 p11より引用



▲地理院地図「自分で作る色別標高図」表示

参考文献

- 1) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 編. 吉備の弥生時代.
吉備人出版, 2016, 136p.